

発行所

一般社団法人 大阪北区歯科医師会

大阪市北区南森町1丁目4番28号
プールパール南森町205号室

TEL(06)6363-0016 FAX(06)6363-0046

2017年新年号

ほくし

迎春



年頭所感

大阪北区歯科医師会 会長 大塚 俊裕



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、おすこやかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

大阪北区歯科医師会の会長に就任させて頂きまして以来、早一年半が経過いたしました。

当会の伝統であります「和を以て貴しと為す」の精神をモットーに、会内融和につとめ、執行部のメンバーと共に意欲と情熱をもって会務を遂行しております。

就任後、黒川相談役、高麗相談役が十八年間築かれてこられたスローガンを継承してまいりました。

一、執行部一丸となった会

員の方々のための円滑な会務執行

一、明るく、活気ある歯科医師会の推進

一、会内融和

一、伝統の継承

以上項目を念頭に置き、会務に携わってまいりました。会員の皆様の温かいご理解とご協力のもと、大過なく事業を進めさせて頂いておりますことを役員一同、心から感謝いたしております。

昨年の事業を振り返りますと、学術部では新任の奥野理事を中心に、三月に阪大歯学部の日野教授をお招きして学術講演会を開催し、十一月には加納先生に会員発表して頂きました。

医療保健部では四月と一〇月に診療報酬改訂に合わせ、大阪府歯科医師会の林常務理事にご講演していただき、会員の皆様により

一層の理解を深めていただきました。

また、昨年四月から今年の一月まで、一〇回にわたり、北区歯科医師会事務所に医療保険ゼミナールを開催し、参加者がひざを突き合わせて医療保険の勉強をいたしました。

広報部では芦澤理事を中心に、タイムリーに「ほくし」を三回発行いたしました。

医療管理部では中川常務理事、大西理事が中心になって、税務説明会を開催し、医療管理講演会では北区医師会の本出副会長をお招きして「迫りくる超高齢社会に備えて」と題した講演をしていただきました。

福祉部では六月に北区の恒例行事であります長寿の会「みおつくしの会」を、一〇月には会員懇親会を開催し、会員相互に親睦を深めていただきました。

今年に入って、日本老年医学会が高齢者の定義を六五歳以上から七五歳以上に引き上げると提言したことが話題になっております。

現在、日本は人口の八人に一人が七五歳以上の後期高齢者、四人に一人が六五歳以上ですが、二〇二五年には、四人に一人が後期高齢者、三人に一人が六五歳

以上という超高齢社会となります。

要介護や認知症、一人暮らしの高齢者が増加する一方、現在も不足している介護職員が少子化の影響でさらに少なくなり、老老介護や介護難民、孤独死などの問題の深刻化が懸念されてまいります。

この二〇二五年問題の対策として、政府が進めているのが高齢者を地域全体で支え、最後まで在宅で暮らせる社会を目指す「地域包括ケアシステム」です。このシステムで歯科界に求められているものが、訪問歯科診療はじめ認知症対応力、摂食嚥下対応力などございます。このシステムの一翼を担うための予算が、たくさんついてきております。

当会も地域医療部で樋口常務、森川理事が中心となって、大阪府歯科医師会の指導の下、それらに関する様々な事業に参画しております。

特に在宅歯科医療連携体制推進事業の一環で、四月から在宅歯科ケアステーションを当会事務所に開設し、北区六師会と連携して、訪問歯科診療のニーズに答えられるようにし

ております。

以前はドーナツ化現象で、北区の住民は少なくなっておりましたが、最近では高齢者が人生の最後まで自宅での暮らしを続けられる北区に集まって来られる傾向があります。ご存知の通り、北区には大阪を代表する大病院がたくさんあり、高層マンション建築も進んでおります。マンションの下にはコンビニができ、歩かなくても高齢者が用を足せるようになっております。今まさに北区はドーナツ化現象からアンパン化現象に変化しつつあります。

八年後に迫りくるこの社会構造に対して、足場を揺るがすことなく対応できるように、関係官庁と連携を密にして、北区六師会、デンタルファミリィであります歯科技工士会、歯科衛生士会と手をたずさえ努力してまいります。

本年も執行部一丸となつて会務に全力を尽くしてまいりますので、どうか旧に倍するご指導ご鞭撻とお力添えを頂きますようお願い申し上げます。

本年が会員の皆様方にとりまして良い年になりますよう心から祈念致しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感

一般社団法人
大阪府歯科医師会
会長 太田 謙司



謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、本年が会員の皆様、ご家族にとりまして実り多く、また多き年となりますことを、心からお祈り申し上げます。

私が会長職に就任してからの三期目も、残すところ半年足らずになりました。

この間の会務の中で最も力を注いだ一つは学術関係の活動であります。ご存知のように毎月学術講演会を開催し、さらに実習を含む学術講習会を年に数回開催しております。歯科医療に携わる我々は歯科医学の進歩・発展に常に注目し、生涯弛まぬ自己研鑽に励むことにより、良質な歯科医療を患者さんに提供し続けなければなりません。

その活動の一つが昨年の近北歯科医学大会であり、大阪から最新の歯科医学情報を発信できたと考えています。このような情報を会

員に提供することは歯科医師会としての重要な責務であり、我々は学ぶことから、それを実践に移せる立場にあるという、非常に魅力的な職業に就いているとも言えます。ぜひその魅力を次世代にも伝えるために、本年も学術活動のさらなる充実を目指したいと考えております。

もちろん歯科保健活動、地域歯科医療活動、休日緊急歯科診療、障がい者歯科診療、そして前会長時代にスタートした夜間緊急歯科診療についても引き続きその充実に努めてまいります。最近大企業でも労働環境について問題が指摘されています。本会におきましても事務局組織の再編に取り組んでおりますが、事務局員全員が働きやすい職場とすることが、同時に会員に資する環境を作ることに繋がります。

さて、中央に目を向けると現政権の政策は社会保障費の削減と患者負担の増加に向かい、ひた走っているのが現実です。そして平成三〇年の医療保険・介護保険の同時改定を控え本年の

動きは大変重要であると考えます。今年は世界情勢を含めて何が起るのかまったく見通せない状況であります。このような時にこそ我々は学術専門団体として、確固たる信念のもと国民のための歯科医療を守り充実させるために努力しなければなりません。国民皆保険制度を有名無実にしな

いために、社会保障制度がしっかりと機能するためにも大阪府歯科医師会は出来る限りの努力を重ねてまいります。



新年のご挨拶

大阪市
北区長 上野 信子



新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、平素より市政・区政の各般にわたり、格段のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年四月の就任以来、「安全・安心で、誰もが住みたいまち」一人ひとりが輝く「北区」の実現をめ

ざし、地域の皆様とともに豊かなコミュニティづくりを推進しながら、「防犯・防災対策」、「子育て・教育環境の支援」を重点施策として取り組んでまいりました。

様々な「場」に参加する中で気づいた地域資源の豊かさや今後の益々の発展の可能性を実感し、今年はその魅力を広く発信することにも注力したいと考えております。

健康増進施策に関しましては、生涯を通じて心身ともにすこやかであることは、

幸せな暮らしの原点であり、その実現には、市民の主体的な健康づくりのための取り組みが重要です。

大阪市におきましては、大阪市健康増進計画「すこやか大阪21(第二次)」を策定し、全体目標を「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」として取り組みを進めております。

また、新たな取り組みといたしまして、本年一月より後期高齢者医療における歯科健診を実施することといたしました。

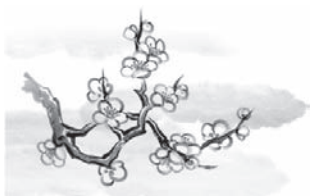
高齢になると、飲み込む力が低下したり、歯や歯茎の状態により食べにくくなったりすることが原因で食べの量が減り、気づかないうちに低栄養状態になるおそれがあります。また、口腔内の衛生状況が、全身の健康に大きくかわっていることがわかってまいりました。

当区におきまして、歯科医師会のご協力のもと歯科健康相談事業、歯周病疾患健診事業及び乳幼児歯科健診事業などの取り組みに加えて妊婦歯科健診や「北区みんなの健康まつり」に

おける普及啓発など、多くの歯科保健事業を実施するにあたり、大阪北区歯科医師会会員の先生方のご協力のおかげで円滑に事業実施ができておりますこと、また区民の健康保持と疾病予防を効果的に推進できておりますことに對しまして改めて感謝を申しあげる次第でございます。

今年も引き続き、全職員とともに、区民の皆様との対話を大切にしながら、できることはすぐに、そして、時間のかかることは一歩一歩確実に取り組んでまいりますので、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、大阪北区歯科医師会のみますますのご発展と皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

大阪市北区保健福祉センター
医務主幹 澤田 好伴



新年あけましておめでとうございます。大阪北区歯科医師会の皆様方におかれましては、清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

平素は北区保健福祉センターの保健衛生事業や、区民の歯科衛生の向上のためにご協力を頂きありがとうございます。特に小児に對しましては、毎月の一歳六か月児健診、三歳児健診の際に、全受診児の歯科健診をして頂き、北区の幼児の歯科衛生の向上のために多大なご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、古い数字で恐縮ですが、厚労省は平成十二年(二〇〇〇年)に、「国民健康づくり運動(健康日本21)」の中で「歯の健康」を課題の一つとして取り上げ、幼児期の虫歯予防について、「三歳児でう歯のない者の割合を八〇%以上にする」

という目標を掲げました。調べてみますと、当時は三歳児健診でう歯のない児の割合は全国平均で六〇%台だったようです。その後、歯科医師会のご努力により、歯科衛生に対する世間の関心が高まり、う歯のない三歳児の割合はどんどん増えていきました。

北区におきましては、平成二五年(二〇一三年)度の北区三歳児健診において、う歯のない児の割合は八四・一%(同年の大阪市二四区平均八一・一%、全国平均八〇・七%)と良好な結果でした。これもひとえに貴会の皆様のおかげと敬意を表する次第です。

現代の高齢化社会で、生涯にわたって歯と口腔の健康を保持していくためには、小児期からの歯科疾患の発症予防、治療による重症化対策が重要と思われます。また、歯と口腔の健康が全身の健康のために重要な役割を果たしていることは、様々な研究結果からますます明らかになってきています。このようなことから、乳児健診を通して、う歯や歯周病の予防を行うことは、

酉年年男・年女

昭和 8年 20年 32年 44年 56年



年男

3班 水沼 和夫
(昭和20年10月9日生)



大塚会長はじめ北区の先生方にはいつも大変お世話になって有難うございます。

昨年十一月北区歯科医師会学術講演会で、加納先生の講習がありました。スバラシイ内容と二時間位、立ちっぱなしで、後進に伝えたいと言う熱意がガンガン

生涯を通じた健康づくりにも役立つと考えられます。どうか、今年も引き続き、変わらぬ支援を賜りますようお願い致します。

最後になりましたが、大阪北区歯科医師会のますますのご発展と、会員の皆様のご多幸、ご健勝を祈念致します。新年のご挨拶とさせていただきます。

三回目の年男

9班 野口 秀夫
(昭和32年6月30日生)



伝わって来て近年体験した事のない感銘を受けました。これからは加納先生を見習って、患者さんの為に元気でポチポチ診療を続けて行きたいと思えます。

加納先生有難うございました。

私は大阪北区歯科医師会入会後、三回目の年男を迎えます。最初の年男(三六歳)はまだ勤務医時代で、今から思えば勉強に、遊びに脳天気には振舞っていました。

二回目(四八歳)は、診療所代表者として六年目で、それまでの気持ちと体力低下とのギャップを感じ始めました。さて、今回は還暦にも当たり、すでに体力低下は織り込み済みながら、先日赤色のゴルフバッグに交

換して、「まだまだこれから」と心の中では叫んでいます。

肉体はそれなりに衰えながら、精神面では未だに夢を追い続けるところもあり、どうも昔の偉い人との差を年を追うごとに感じます。

論語の中の有名な一節で「三十にして立つ、四十にして惑わず、五十にして天命を知る、六十にして耳順う」とありますが、私の場合は三十代でも気楽な身、四十代で悩み倒し、今六十になろうとしても、とても天命を知ったようには思えません。三回目の年男を迎えて、せめて人の言葉に耳を傾けることぐらいは心がけようと思えます。

年男

7班 阪本 光伸
(昭和44年11月27日生)



歯科医師となり二回目の年男を迎えることとなりました。前回の年男の年にこの紙面に投稿させて頂いたことがつい先日のように思われ、使い古された表現で

ありますが「光陰矢の如し」本当にこの言葉を実感する十二年間であります。

この間を振り返りますと北区歯科医師会においては地域医療や行政との関わりに携わらせて頂いたり、歯科医師国保関連の事業など多くのことを学ばせて頂いた貴重な月日のように思われます。

そして自分自身ではまだまだ若手と思っておりますが、すでに中堅とよばれる年代であることを実感してきております。

一般的には人生折り返しとも云われる年齢ですが、いま何かと話題のアメリカ新大統領トランプ氏は七十歳とのこと、あのバイタリティーを考えればまだまだこれからと奮い立たせこれからは何事にも邁進して行こうと思っております。



二〇一七年 新年互礼会開催

ヒルトン大阪
四階・真珠の間

H29.1.14

HP



一月一四日(土)、午後六時からヒルトン大阪四階真珠の間において、二〇一七年新年互礼会が、関係官公署および団体代表、議員の

来賓を招き、七五名が出席し開催された。佐々木裕専務理事が司会を務め、野口秀夫副会長の開会のことばで始まった。最初に大塚俊裕会長が新年の賀詞と参会への謝辞をのべた。続いて北岡均大阪府北区副区長、市原聡大阪府歯科医師会副会長にご挨拶をいただいた。西本雅英総務常務理事による来賓各位の紹介の後、波多野泉大阪府北区医師会会長、中山泰秀衆議院議員、美延映夫大阪府会議員に祝辞をいただき、木村雅英大阪府北区薬剤師会会長の音



頭で乾杯して懇親会に移った。多くの会員が来賓や会員相互と和やかに交流し楽しく時が流れていった。最後に、大浦寿哉副会長の開会のことばで会を締めくくった。

尚、来賓各位は次の通りであった。

(順不同敬称略) 北岡均(大阪府北区副区長) 市原聡(府歯副会長) 吉岡慎郎(府歯



理事) 五條房己(府歯連盟副会長) 長崎三男(府歯連盟理事) 菅尾泰典(府歯国保組合専務理事) 三輪佳子(府歯国保組合理事) 木村忠彦(大阪府北消防署署長) 波多野泉(大阪府北区医師会会長) 岡田克也(大阪府大淀歯科医師会副会長) 木村雅英(大阪府北区薬剤師会会長) 草分陽一(大阪府大淀薬剤師会理事) 中山泰秀(自由民主党副幹事長・



衆議院議員) 久谷眞敬(大阪府議会議員) 前田和彦(大阪府議会議員) 山本とも子(大阪府議会議員) 美延映夫(大阪府議会議員) 西康文(大阪府歯科技工士会副会長) 池田和久(大阪府歯科技工士会中央北支部長) 信川美香(大阪府歯科衛生士会副会長) 泉井英子(大阪府歯科衛生士会大阪北支部長)

計報



西奥守雄先生(1班)

平成二八年十月三〇日死去

御略歴

昭和四年三月一日生

昭和二四年

大阪歯科専門学校卒

(診療所)

西奥歯科医院

北区中之島三三二二十三

中之島ダイビル七階

編集後記

本格的に寒くなってきました。本年もどうぞよろしくお願い致します。

パノラマ

イギリスの国民投票によるEU離脱、欧州での極右の台頭と全世界的にポプリズム(大衆迎合主義)勢力が台頭している中、アメリカ合衆国では「アメリカファースト」を掲げるトランプ大統領による政権が始まろうとしている。

この傾向は格差が拡大し中間層以下の閉塞感と高い失業率、特に若者の高い失業率による政治不信から社会の不安定化が生じていることが要因と言われている。

日本での失業率はまだ三%台と低いものの非正規雇用が増加し、大卒者の三年以内の離職率も三割と高く、若者を取り巻く状況は決して明るいものとはいえない。学生の奨学金の返済が出来ず自己破産する例も増えるなどアメリカ社会と共通する問題も表面化してきており、今後の社会情勢への不安要因も多い。

ポピュリズムの波が引き起こす影響は日本も避けて通ることは出来ないと思われるが、我々は「患者ファースト」の精神を忘れず職務を全うし、日本の若い人達が未来に希望を持てる社会となるよう期待したい。(K)